

第6回小川芋銭検定受験

のための講座開催

今回で6回目を数える小川芋銭検定を10月16日(日)に市中央生涯学習センターで開催します。

そこで、今回も検定のための事前講座を次の日程で開催します。上位級の合格を目指す方はもちろん、講座のみの参加も可能ですので、「小川芋銭」って誰?という初心者の方、ぜひこの機会に小川芋銭の世界に触れてみてはいかがでしょうか。

場所 かつばの里生涯学習センター

〒多目的室(城中町1-8-8)

8)※牛久市立第三中学校前。

講師 小川芋銭研究センター学

芸員

参加費 無料

申し込み方法 講座当日、会場

で申し込み受け付け。

問い合わせ 小川芋銭研究セン

ター ☎828・7985

小川芋銭検定受験のための講座一覧

講座名	日時
初級受験対象講座	9月11日(日)午前10時～
中級受験対象講座	9月11日(日)午後2時～
上級受験対象講座	9月17日(土)午前10時～
最上級受験対象講座	9月17日(土)午後2時～
特別級受験対象講座	9月18日(日)午前10時～

※各講座90分～120分程度



昨年開催された講座の様子

聖 小川芋銭

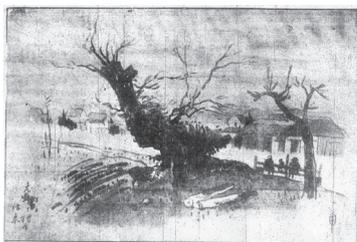
小川芋銭新発見資料②

今回は、新聞調査により『老■と村の往来』(図1)という作品を新たに発見したことをご紹介しましたが、今回はこの絵の芋銭研究上の意義について解説したいと思います。

『老■と村の往来』は、牛久市が所蔵している『老楊と荒村』(図2)と同じ老楊が主題で、小川家所蔵スケッチ(図3)と同じ構図を持ち、木の形や家の佇まいなどに作品としての推敲の跡が見られます。以上のことからこの作品は、スケッチと日本画である『老楊と荒村』の中間にあたる作品ではないかと思われます。また、取材地については、明治末から大正にかけて数度訪れた会津地方であることが確認されています。

芋銭は、画家としての基礎を西洋画に学び、30歳ごろから挿絵画家として活躍、明治から大正に時代が変わる45歳ごろに日本画家として活動を始めました。『老■と村の往来』の発見により、『老楊と荒村』は日本画への転換期である大正2年作であることが確定しました。

取材地や背景なども明らかで、現存数が非常に少ないこの時期に制作されたと確認できたことは、芋銭の画業上・研究上からも貴重な作品といえるでしょう。



↑図1 「老■と村の往来」
(『東京日日新聞』大正2年1月2日号)
※■の部分には判読不能の文字



↑図2 「老楊と荒村」(牛久市所蔵)



↑図3 小川家所蔵スケッチ

小川芋銭研究センター学芸員 秦美紀子